

第5学年 社会科学習指導案

単元名「わたしたちの国土と環境」

～森林を守る人々～（全8時間）

1 単元について

朝日町は森林に囲まれた土地である。子どもたちは常に森林を目にしながら生活している。「森林は酸素を出している。」「緑は大切だから守っていかなくてはならない。」こうした知識は、いろいろな情報から知っている子が多い。しかし、それらの情報は表面的なものにとどまっているように思われる。この単元の学習を通して、森林が国土の保全や水資源の涵養のために大切な働きをしていること、大気の浄化や騒音防止などの生活環境を保全する働きをしていることについて考えさせていきたい。その上で国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることをつかませたい。

指導に当たっては、国土の土地利用全体に占める森林面積の割合や森林の分布の現状、森林資源の働きなどを地図や産業との関連について具体的に考えることができるようにする。また、森林資源の育成や保護に従事している人々の努力や願いを理解することによって、環境保全の大切さに気づかせたい。そのため、朝日町の森林に出かけ、森林組合の方から仕事内容や努力してみえることを聞いたり、木を育てるための仕事の一部を体験したりする。また、朝日町の国有林を管理している稲川森林官の仕事内容や願いを学ぶことで、地球環境や人々の生活を守るため森林資源の育成や保護が大切であることがわかり、朝日町や地球の環境保全のために自分たち一人一人が気をつけていこうとする意識を育てたいと考えている。

2 単元の目標

- (1) 森林資源の働きに関心をもち、意欲的に調べようとするとともに、環境保全のための国民一人一人の協力の必要性に気づくことができる。（関心・意欲・態度）
- (2) 国土の保全や水資源の涵養のための森林資源の働きや、森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力を考えることができる。（思考・判断）

- (3) 環境保全の重要性について、身近な環境を観察・調査したり、資料を活用したりして具体的に調べ、その学習をもとにそれぞれの立場で話し合うことができる。

（観察・資料活用の技能・表現）

- (4) 国土の保全や水資源涵養のための森林資源の重要性や、森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力を具体的に理解できる。（知識・理解）

3 研究と関わって

(1) 指導計画、単元構成の工夫

ねらいにせまる人物の教材開発

朝日町の国有林の森林資源の育成や保護に従事している稲川森林官を中心に取り上げる。

稲川森林官は、私たちがいつも見ている朝日町の国有林を管理している森林官であり、学校の近くの森林管理署で働いてみえる。子どもたちにとっては身近な人物である。稲川さんは一人で携帯電話の電波も届かない山奥まで歩いて回り、熊や蜂や蛇にあうかもしれない、また滑ってがけから落ちるかもしれない危険と隣り合わせになりながら朝日町の広い国有林を管理してみえる。稲川森林官の「森林を守り、人々の生活や環境を守りたい」という仕事に対する強い願いを学習することを通して、森林資源の育成や保護が大切であることを理解させたい。

枝払いなど、直接森林の世話をしているのは森林組合の方であることから、森林組合の長瀬辰巳さんに仕事の内容や努力してみえることを教えていただき、実際に朝日町の森林に出かけて木を育てるための仕事の一部を体験させていただく。体を使って子ども自身が実際に作業することで、森林を守り育ててくださっている森林官や森林組合の方の仕事の内容や苦勞を、より具体的に、実感をもって理解させたいと考えている。

社会的事象の意味をとらえる指導計画の作成・単元構成の工夫

単元の導入に当たっては、身近な森林の様子や、御嶽の原生林での散策などを思い起こさせて、森林がどのような働きをしているのか考えさせるきっかけとする。

我が国の国土の約3分の2が森林であることなど、我が国の国土全体の自然の様子について資料を使って学習したり、稲川森林官による森林の保水実験などの体験活動を行うことにより森林資源の働きについて調べたりする。また、森林を守るためにどのような世話が必要か調べるため、森林組合に出かけ、実際に枝打ちや下草刈りの体験をする。

森林保護のために働いている稲川森林官の願いについて考える時には、御嶽登山で苦労して山に登った体験を思い起こさせることで、仕事の大変さがより身近に感じられると考える。さらに海で働く漁師さんたちも森林を守る活動をしていることに注目させ、森林の働きや保護の活動は我が国全体で行われていることも知らせていく。

単元の終末では、かけがえのない森林を守るため、私たち自身に何ができるのか、子どもたち一人一人に投げかけ、考えさせていきたい。

(2) 学習活動の工夫

ねらいを明確にした学習活動の工夫

前時に、稲川森林官の仕事について学習する。一人で山に登ることがいかに危険であり、安全に気をつかってみえるかを押さえておく。実際に稲川森林官に来ていただいて、仕事の内容を聞いたり、持ち物を見せてもらったりする。

本時には、仕事のために8ヶ月に100回のペースで山に登っている資料を提示し、御嶽登山の体験と重ねて考えさせ、大変な仕事であることを十分感じさせる。そんなに大変な仕事なのに、稲川森林官は喜びを感じているという事実を突きつけ、どうして喜びを感じられるのかという課題をつかませたい。

仲間と練り合う交流活動の工夫

個人追究の場では、既習事項から自分の考えをもたせる。子どもたちからは

「森林が育つと雨水を蓄えて保水してくれるから。」(資料)

「稲川さんが森林を守る仕事をするといい木が育つから。」(資料)

「土砂崩れを防ぐことができるから。」

(資料)

「森林が酸素を出して空気がきれいにしてくれるから。」(資料)

等の考えを出させたい。自分の意見を発表するときには、どの資料からそう考えたのか、根拠を明確にさせる。子どもたちから出た考えを深めるため、「そうした事がどうして稲川さんの喜びにつながるのか。」と切り返す。そうすることで子どもたちは「土砂崩れを防ぐと、地域の人々の暮らしを守ることができるからうれしいと感じると思う。」「空気がきれいになると地球の環境が良くなって人間や動物たちが助かるから喜びを感じられる。」等、一歩進んだ考えをもつことができるだろう。子どもたちの意見の類似点、相違点を板書で構造化しながら、稲川さんはみんなの生活や地球の環境を守ることを願って頑張ってみえることを考えられるようにしたい。

(3) 指導・援助、評価の工夫

調べ考える指導・援助の工夫

自分の考えをもつことに時間のかかると予想される子を集めたり、その子に寄り添ったりして「稲川さんの仕事は森林を守る仕事だったね。森林を守るとどんないいことがあったかな。」と、既習事項から考えるよう促し、どの資料から考えたらよいかヒントを与える。

多様な見方・考え方ができにくい子には、友だちが意見を言ったときに確認の声かけをしたり、その子が発表したときに見方・考え方を整理する言葉かけをする。

学びを確かにする相互、自己評価の工夫

個人追究の時には、資料から自分が考えたことをノートに書かせている。1時間の授業の終末では、集団追究で友だちの意見や地域人材の話聞いてわかったことをまとめとして書かせている。個人追究の時の記述とまとめとの考えの変容から、ノートに教師が認め励まし等を朱書きすることで評価を行っている。

学習の自己評価カードでは、自分の学習態度はどうだったのかを振り返らせている。

教科係による本時の振り返りを位置づけている。全体の学習態度について係から見た振り返りを行い、次の授業へつなげていく。

